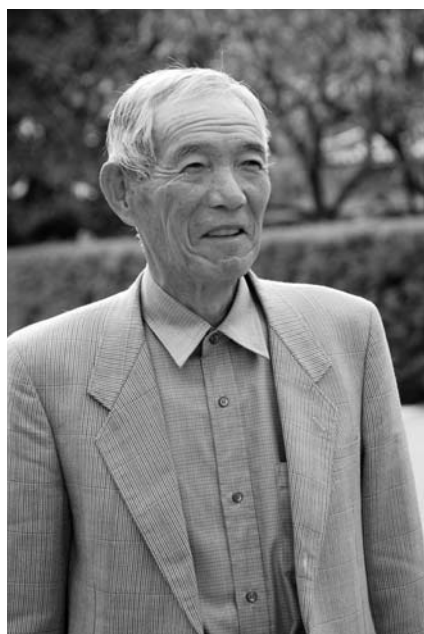


顔を合わせる顔が大事。
地域の人々と
積極的に地域行事に参加し、



糸島市行政区長会
副会長
もりその ただゆき
森園 忠之さん

「結」の精神を忘れないで

お互いに支え合い、
助け合う「結」の精神。
信頼関係を築いていく
そのためには、
積極的に地域行事に参加し、

まちづくりを行う上で
重要なのは、

「い」としま共創プラン」と
いう言葉だけを聞くと、
ほとんどの人が難しく考
えてしまうのではないでし
ょうか。私も最初にこの言
葉を聞いた時は、正直「何
のやるうか」と思いました。
地域の人などで一緒にま

ちづくりに関係していま
す。つまり、この共創プラン
の一番の目的は活動を行う
上で重要となる地域の「結
」の言葉に置き換えるなら
ば「絆」をつくることだと
私は考えています。

「あ」れは昭和55年8月30日
その当時、私は地元・
二丈浜窪の消防団の班長を
務めていました。
降りやまない大雨に危機
感を覚えながら見回りをし
ていると、突如轟音とともに
土石流が発生したのです。幸
い民家は下敷きにはなりま
せんでしたが、生活道路が土
砂で埋まり住生しました。農

「地」域の行事は、地域の
人々のチャンスです。行事を
成り立たせることよりも、過
程で人と人とが顔を合わせ
て仲良くなることに意味が
あるんです。仲良くなり、結
束が強くなれば、そのことが
必ず災害時に生きてきます。

「地」域の行事は、地域の
人々のチャンスです。行事を
成り立たせることよりも、過
程で人と人とが顔を合わせ
て仲良くなることに意味が
あるんです。仲良くなり、結
束が強くなれば、そのことが
必ず災害時に生きてきます。

いとしま共創プランについての問い合わせ 糸島市地域振興課 ☎(332)2062



深江校区在住
OZ サッカークラブ代表
古家さん(右)
瀬川さん(左)

「地」元深江で子どもたち
にサッカーを教
えています。今日
はクラブの子
どもたちを連
れてこの清掃
活動に参加し
ました。
僕たちは、地
元で生まれ育
ったので深江
の自然が本当
に大好きです
。この素晴ら
しい自然を守
っていくため
にも、継続し
て活動するこ
とが必要だと思
います。そし
て、このこと
を子どもたち
にも伝えてい
かなければな
りません。こ
れからもクラ
ブの子どもた
ちを引き連れ
て、清掃活動
を始めとする
地域の行事に
積極的に参加
していきます。

「九」州・糸島の自然に引
かれ、6年前に
大阪から引越
してきました。
家の近くには
海があり、山
もある。本当
に住みやすい
ところだと思
いました。子
どもたちも気
に入ってくれ
ています。
ただ、この景
観は何もしな
ければすぐにな
くなってしま
います。よそ
から引越して
きたから自分
たちには関係
ない…そう思
わずに、この
きれいな海を
、そして浜を
守っていくた
めにも私たち
家族は清掃活
動に積極的に
参加していく
つもりです。



深江校区在住
の野口さん一家

参加者の声

清掃活動を終えて…

主催者の声

深江の自然と環境を守る会
副委員長
やまなか としひこ
山中 稔彦さん



「こ」の活動は糸島市が推
進しているまち
づくり事業の
一環として行
っているわけ
ですが、あく
まできつかけ
にすぎません
。お互いの顔
を知っている
隣近所の人た
ちが、お互い
に手を取り合
ってまちづく
りを行う、い
わば「地域の
絆」を強めて
いくことがこ
れからの時代
には必要では
ないでしょう
か。
きれいな自然
を維持し、外
から注目され
るようになれば
、きっと人も
集まってきます
。この糸島が
にぎやかにな
る日を夢見な
がら活動を続
けていきます。

「当」日を迎えるまで、み
なさんが参加
してくるかと
心配していま
したが、予想
以上の来場者
数に驚きまし
た。これだけ
参加してもら
えるというこ
とは、みなさ
んの自然に対
する高い意識
の表れだと思
います。
特に子ども
たちの参加が
多かったこと
が重要なポ
イントで、子
どもたちに松
原のたいせつ
さ・ありがた
みを知ってら
うことが将来
の自然を守
っていくこと
につながって
いきます。
今後も楽し
いイベントを
織り交ぜなが
ら活動を継続
していきます。

深江の自然と環境を守る会
実行委員
しば た しゅん
柴田 順さん



今後の清掃活動予定
日時 12月4日(日)9時～ 場所 二丈交流体験広場
内容 1時間程度の清掃活動後、希望者によるウォーキング大会を予定
問い合わせ 深江公民館 ☎(325)0234

